

2022 年度 個人研究実績・成果報告書

2023 年 4 月 18 日

所属	商経学部	職名	准教授	氏名	松下 幸生
研究課題	資源の依存性を決定する要因にもとづく解釈—中小の部品メーカーを対象に—				
研究キーワード	中小企業 製造業 資源の依存性 下請	当年度計画に対する達成度	1.目標を超える研究の進展・成果を達成した		
関連するSDGs項目	9. 産業と技術革新の基盤をつくろう	該当なし	該当なし	該当なし	

1. 研究成果の概要

- 研究課題（資源の依存性を決定する要因にもとづく解釈）の全国大会報告、ならびに、査読投稿という取組みにおいて、理論構築を果たした。松下（2019）と対になっている論文となる。松下（2019）では、「外注取引関係にない注文生産」をしている中小企業、正確には中小の製品メーカーを対象に、資源の依存性を決定する3つの要因を適用するかたちで解釈できると主張した。2022年度は、「外注取引関係にある注文生産」をしている中小の部品・製品メーカーにおいても同じ理論を適用可能であることを主張した。今後の展望は、松下（2023 刊行予定）において述べた複数の課題に取り組んだうえで、理論的解釈の検証を定量的に確認することである。
- 研究代表者 荒川教授のプロジェクトにおいて、石見・出雲出張を実施した。加えて、米沢出張において資料収集、ならびに、講演会の段取りと司会をする過程で知見を深めた。それらの到達点を経済研究所会議等において、米沢人としてあるべき姿と大正時代における繊維工業の経営者の生業に対する労働観の一端を報告した。
- 建設政策研究所において10年ぶりに実施する「首都圏基本調査」のプロジェクトに携わっている。その一貫として、近年の動向と展望についての講演を担い、直近の成果（上記1点目）を意識するかたちで対価の獲得の余地を提起した。

2. 著書・論文・学会発表等（査読の有無及び海外研究機関等の研究者との国際共著論文がある場合は必ず記載）

【論文（査読あり）】

- 査読受理 「外注取引関係にある注文生産をしている企業に対する資源の依存性—中小の部品・製品メーカーにおける劣位性—」、松下幸生、単著、日本中小企業学会論集、第42号、ページ未定、2023 予定、同友館

【著書・論文（査読なし）】

なし

【その他】

- 「中小の部品・製品メーカーにおける劣位性—外注取引関係にある注文生産をしている企業に対する資源の依存性—」、松下幸生、日本中小企業学会全国大会報告要旨、第42回
- 「労働観の表象と変遷に関する比較歴史社会学的研究—研究プロジェクトの開始にあたって—」、松下幸生、単著、Research & Review、44~46、2023

【学会発表等】

- 「中小の部品・製品メーカーにおける劣位性—外注取引関係にある注文生産をしている企業に対する資源の依存性—」、松下幸生、日本中小企業学会東部部会、2022年8月8日、Zoom
- 「中小の部品・製品メーカーにおける劣位性—外注取引関係にある注文生産をしている企業に対する資源の依存性—」、松下幸生、日本中小企業学会 全国大会 第6分科会、2022年9月25日、東洋大学
- 「対価獲得の余地」、松下幸生、首都圏建設組合基本調査検討委員会、2023年3月31日、建設政策研究所

3. 主な経費

- 関連資料の購入、ならびに、電子機器を含む消耗品に使用した。
- 学会参加、報告に必要な経費に使用した。

4. その他の特筆すべき事項（表彰、研究資金の受入状況等）

なし

【その他の活動】

- 特定非営利法人 建設政策研究所（理事）
- 特定非営利法人 建設政策研究所（首都圏基本調査 調査員）

（本文は2ページ以内にまとめること）